

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	校内平均値では目標値に対して13.6ポイントと大きく上回る結果となった。また、学年別に見てもそれぞれの学年で目標値を上回る結果となった。基礎・活用別に見ても、どちらも10ポイント以上目標値を上回っている。領域や観点別、解答形式でも、どの項目についても目標値を大きく上回っているため、細部の改善をしつつ、引き続き本校の国語学習の取組を進める。
社会	校内平均値では、全ての学年で目標値を上回る結果となった。基礎・活用別に見ると、基礎的内容が5.5ポイント目標値を上回っているのに対して、活用的な内容は16.4ポイント上回る結果となっている。普段の授業において、社会的事象や歴史的背景などを考える機会を多く取っていることがこの結果につながっていると考える。今後も一人一人が考え、友達と協働して授業展開を大切に社会科の学習を進める。
算数	校内平均値では、全ての学年で目標値を大きく上回る結果となった。校内平均値も目標値を16.6ポイントと大きく上回っている。また、観点別正答率においても、全学年で全ての観点の目標値を5ポイント以上上回る結果となった。昨年度までの校内研究を軸とした授業改善に全校で取り組んだことにより、児童の定着度が十分高まったと捉えられる。
理科	校内平均値では、目標値を上回る結果となったが、学年によって習熟に差が出た面もある。観点別に見ると、目標値を下回ってしまった学年においては、「思考・判断・表現」や「記述」の項目が目標値に到達していないことに特徴がある。基礎的な知識を十分に習得した上で、そこからどのようなことが考えられるのかといった部分や自分の考えをしっかりと表現することに課題がある。授業の中でよりそのような部分に着目した展開をしていく必要がある。
外国語	校内平均値では目標値に対して6.4ポイント上回る結果となった。朝の帯学習の時間に基礎的な内容や文化的な内容、ALTとのTTの授業では活動を伴った表現に重きを置いた学習とメリハリをつけて学習に取り組んできた結果と言える。観点別に見てもすべての項目で目標値を上回っているが、書くことがその中でも目標値と近似値となっていることから、校内で共通理解をし学習を進める。

本校の教育目標
<p>○よく考え、自ら学ぶ子 各教科等の見方・考え方を働かせながら主体的・協働的に学ぶ子 ◎思いやりのある子 規律を重んじ、自他の生命や人格を尊重しながら互いに高め合う子 ○健康でたくましい子 健康な体と健全な心を持ち、何事にも前向きに粘り強く挑戦する子</p>

本校が児童に育成したい力
<p>国際社会にあって、日本人としての教養と誇りを持ち、これからの変化の激しい社会をよりよくしようと主体的に社会の形成に参画すると共に、生涯を通じて学ぶ意識が実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を育成する。</p> <p>○各教科の見方・考え方を働かせながら主体的・協働的に学ぶ力 ○規律を重んじ、自他の生命や人格を尊重しながら互いに高め合う力 ○健康に体と健全な心を持ち、何事にも前向きにねばり強く挑戦する力</p>

学力向上にかかわる経営方針
<p>◇探究的な学習プロセスを通して、学習意欲を向上させ、主体的・対話的で深い学びを実現し、各教科等の見方・考え方を広げ、深める指導の工夫を図る。</p> <p>◇基礎的な知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を働かせて課題解決を図る学びに向かう力、人間性の育成を図る。</p> <p>◇一人1台端末を用いた個別最適化での指導や家庭学習の進め方の工夫による個に応じた指導の充実。</p> <p>◇特別支援教育及び個に応じたきめ細やかな指導の充実に向けた習熟度別少人数指導、授業改善推進プランの推進及び教員研修と校内研究の充実を図る。</p>

校内における学力向上推進体制
<p>①研究推進委員会を中心に校内研究を推進し、授業改善を進めていく。②「王五小学習スタイル」を確立し、学習環境を整えて指導にあたる。③少人数指導、チームティーチングによる学習指導を効果的に行い、教職員が連携をとり個に応じた指導を推進する。④GIGAスクール構想に沿って、学習用タブレット端末を活用して学習の個別最適化を図ると共に、家庭学習の充実を図る。</p>

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>◇授業展開(問題解決の4段階の過程を通じた授業スタイル)の工夫 ◇前時までの振り返りを活用した学習の見通しがもてる導入の工夫 ◇互いの考えのよさを伝え合い、高めることのできる全員が参加する学び合いの工夫 ◇A4ノートの余白に自由記述欄を設け、メタ認知がしやすい工夫 ◇振り返りの時間(学びの手ごたえ)を充実させ、学びの質や姿勢のきっかけを、客観的に振り返ることを積み重ねる。</p>	<p>◇思考力、判断力、表現力等の育成を図る計画を立て、「ひらめきノート」を活用したノート学習指導を充実させ、自分の考えを効果的に表現する力を高める。 ◇北区GIGAスクール構想を実現させるために、学習用タブレット端末を用いた個に応じた授業改善や家庭学習の充実を図り、学力の定着を図るよう計画する。 ◇東京ベーシックドリルやライズズライブラリを活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図ることができるようにする。</p>	<p>◇「学びに向かう力、人間性を育む算数教育」をテーマに校内研究を進め、全校体制で授業改善を行う。 ◇特別支援教室と連携した全校一斉型SSE「ほかほかタイム」に取り組み、周りの友達とよりよく関わり合うためのコミュニケーションスキルの向上を図る。</p>	<p>◇評価規準・評価方法の明確化に努める。ねらいと評価規準が明確な授業を積み重ね、適正で妥当性のある評価活動を実践する。 ◇「全国学力・学習状況調査」からどこでつまづいているのか等を分析し、学習指導の改善と充実を図る。</p>	<p>◇授業及び行事の公開、道徳授業地区公開講座等、積極的に教育活動を公開し、教職員の授業改善に向けた意識を高める。 ◇十条大好きプロジェクト、ゲストティーチャーによる授業等を取り入れ、地域に根ざした教育を推進する。 ◇学校と学校運営協議会が密接な連携をとり、学校の取組と保護者や地域ボランティアの活動と連携させながら、分かりやすい授業が行われているかを評価、検証をする。</p>